

全校集会 学校長の話（2025年6月24日）

- きのう、6月23日は何の日か知っていますか。
- 沖縄では「慰霊の日」と呼ばれ、1945年に沖縄戦の組織的な戦闘が終わった日です。およそ20万人が犠牲となり、その半数近くは子どもを含む住民でした。島の人口のおよそ4人に1人が亡くなったともいわれます。きのう、沖縄では学校が休校になり、正午に県民が一斉に黙とうをささげました。
- 同じ1945年、ここ大阪でも悲劇が続きました。大阪大空襲は8回にわたって行われ、最初の3月13日の空襲だけで、北区はほぼ焼け野原。さらに終戦前日の8月14日、第8回空襲では京橋駅周辺に1トン爆弾が投下され、駅だけで500人以上が命を落としました。
- 沖縄では地上戦、大阪では空襲。場所は違っても、街ごと失われた悲しみは同じでした。ただ、戦後には大きな違いがありました。沖縄は27年間、日本の主権が及ばず、アメリカの統治下で基地の島となりました。その構図は、日本復帰を果たした今も、解消されていません。
- そして世界では、今も命が脅かされています。ウクライナとロシア、パレスチナとイスラエル——尊い命がまるで虫けらのように扱われ、奪われています。3日前にはアメリカ空軍がイランの核関連施設を空爆し、多くの犠牲者が出了との報道もありました。
- 80年前の沖縄、そして大阪がそうであったように、一度奪われた命も日常も、二度と戻りません。
- それでは、私たちができることはないか、考えてみたいと思います。“最初の一歩”は、これはいつも言っていることです
が、いちばん近くにいる人を大切にすることです。大きな争いは、目の前の小さな無関心や、乱暴なひと言、そこから火がつき、やがて暴力にエスカレートします。反対に、隣の人への思いやりや、丁寧な言葉は、相手の心を守り、まわりへ連鎖していきます。
- 北稜中学校が、教室が、互いを尊重し合う空気で満たされていれば、外の世界の憎しみを跳ね返す力になる——その出発点が、きょうみなさんが交わすあいさつや会話です。授業での協力、部活動での励まし合い、休み時間の笑顔——その一つひとつが「平和のタネ」をまく行動だと覚えておいてください。